

編集後記

2013年春、旅行先の工芸屋さんでけん玉を手にして以来、私はけん玉に夢中だ。何気なく購入したその時には、これほどまでに自分がけん玉に熱中するとは思わなかった。しかし今、心から思うのは、けん玉は面白いし、かっこいいということだ。過渡期を迎えたけん玉文化を、この先さらに盛り上げていきたい。

佐藤 萌